

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300484		
法人名	有限会社湯布商事		
事業所名	グループホーム花の里		
所在地	由布市庄内町西361番地		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが常にきれいで快適に生活してほしいと思い力を入れている。特にフットケアに力を入れている。又玄関を入ってきた時の臭いがないかも気にかけているところである。看護や介護力を生かした看取りケアにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・グループホーム「花の里」は平成12年に開設し、14年が経過しているが、マンネリ化がなく、食事も開設当初より、季節感や地元の野菜を使い、安全な食材を使った手作り料理となっている。
 ・特に、フットケアを大切にし、利用者の足裏はすべすべである。利用者の清潔の保持・健康面に配慮している。重度化しているにもかかわらず、利用者の表情が穏やかである。
 ・管理者が看護師であり、医療との連携を密に図り、理念に沿い、安心・安全に暮らせるように配慮している。職員の在籍年数も長く、人材の育成に努め資格取得者も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・安全・交流」を理念とし、職員は理解している。2か月に一度の便りではご家族に状況報告し安心につなげている。日々の暮らしの中では「安全」を大切に呼びかけている。	理念に基づき、安心して暮らせるように、安全面に配慮し、地域との交流を大切にしたいケアが実践されている。また、理念は、定期的に会議の中で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームと同一敷地内に事業所があり、その利用者と地域の方と年に1~2度バス旅行もある。又春まつりや夏まつりは地域の方も参加してくれる。	事業所は、静かな田園地帯にあり住民も高齢化している。健康管理や介護予防について相談援助を行っている。また、年2回の祭りごとやバス旅行等に住民をお誘いし、触れ合いの場としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独居の方や独居に近い方々に対し地域の方と清掃に行ったり配食・安全確認を行い状態によりサービスにつなげた。民生委員さんと連携している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センターの職員や地域の代表者・居宅支援事業所の職員も参加しており当事業所の抱えている課題や悩み等で多くの意見をもらっている。	当事業所は平成12年に開設し、利用者も重度化している。運営推進会議の中で地域包括支援センターや多くの参加者に現状の取り組みを報告し、意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員も出席しており日々の暮らしの様子や現状を報告すると共に課題についても提起して意見・アドバイスをもらうようにしている。	市の職員は、事業所の現状を把握し、運営推進会議に参加している。開設して14年になり、重度の利用者も多く課題もある。困りごとは行政に相談し、アドバイスや提案をもらい、現状に即したケアを展開している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をすることが利用者にも与える精神的、身体的苦痛をよく理解しており逆効果であることを承知している。利用者の行動に職員が合わせることが鉄則である。	身体拘束をしないケアに取り組むために、拘束はもとより言葉の暴力について、話し合いの場を設けている。利用者の行動に対し、寄り添うケアを鉄則としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないという考えは職員全員周知している。月分に一度の委員会で身体拘束、虐待についてのカンファレンスをおこなっている。少しの傷・打撲についても原因を追究する。		

事業者名:グループホーム花の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強の機会が少ないが利用者の中に後見制度利用の方や安心サポートを利用する方がおり、身近に感じることができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては十分説明している。解約においてもこれまでにトラブルはない。利用中の変更内容においても十分な説明と理解を頂き納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の中には長いお付き合いの中、本音で話せる関係ができており要望や気づいた点は言ってもらえるよう声かけもしている。面会の少ない方や新しい入居者の方に対しては考えていきたい。	運営に関し、在籍年数の長い利用者や利用者家族は協力的で面会も多い。新利用者や面会の少ない家族には、要望や意見を出してもらえるよう働きかけを行うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は常にホームに居ることが多く管理者は職員として仕事に従事しているため常に全体の状況は把握しており職員の声も十分聞けるし働きやすい職場作りを目指している。	運営に関する意見は、代表者が職員と一緒に勤務しているため、職員と気軽に相談できる間柄になっている。職員の在籍年数が長く、提案や意向は互いに言いやすい間柄となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが長所があり、その長所を認め環境作りに生かしている。又仕事量や仕事内容によっても評価の対象としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1～2年研修を受ける機会が少ないこと限られた職員だけが研修に行ってることも多い。全体の質の向上を上げるには、内外の研修を考えていべきと思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ネットワークや由布市の勉強会にはできるだけ参加して、良いことは取入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とご家族の思い・意向を聞き、良く観察し、あらゆる情報を元に良く知った上でセンター方式を活用し生活が始まります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を聞いて、ご家族にも協力を求めることも必要と考える。 ホーム側とご家族の協力で本人がよい生活が送れるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況により、すぐに入居に結び付けるのではなく、本人の希望や状況的に見てよい方法を取ることも大切と考える。(ヘルパーを利用したりデイサービス利用等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢化や重度化が進む中でも大家族の一人として共に暮らしているという事、病院ではない。出来ることを一緒にしながら生活ということが大切と考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に本人を支えていくことは基本だと思っている。 状況を説明し家族の協力のいるところは、お願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で地域の話を楽しみます。お店や有名人や記憶にありそうな事。表情が生き生きして話が広がります。	行きつけの理髪店や里の駅・地元の有名人・かかりつけ医等の話で盛り上がったり、馴染みの人との触れ合いがある。また思い出の場所や故郷にお連れし、想起能力を把握している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でポツンとしていることのないようホームのモットーでもあり寂しい思いをさせないかわりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの方がホームで最期になるか病院に転院という形が多いのですが、中にはご家族から相談受けたり祭り等のイベントには声をかけたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを最優先し、出来ること・出来ない事を見極め、あらゆる手段を考えている。本人が言えなくても希望を感じ取り気持ちに添うように努めている。	詳細なアセスメント用紙を用いて、出来る事・出来ない事を把握して、利用者本位に検討している。また、利用者一人ひとりの思いを汲み取り、寄り添うケアに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで、どの様な生活をしてきたかを把握し、気持ち良く生活できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体の状況や今までの生活の様子等を把握し、一日をどの様に過ごしたいのかを知り、事業所側のペースに巻き込まない。心地良い生活支援。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制にしており、担当者はアセスメントまで行い、その後全員で支援方法を共有するためのカンファレンスを行う。計画作成者を中心として、ケアプラン作成している。	重度化しているが、一人ひとりのアセスメント情報をもとに、実践しやすい介護計画書を作成している。ケアプランの実践・評価・見直しを行い、現状に沿って介護計画書を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録すると共に身体的精神的も含めて、残された能力・意外な部分の気づきも記録に残し、ケアプランにつなげていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がどこで生活するのが良いかを考えた時、グループホームではなく有料ホームで他のサービスを使ったほうが良いと考えれば、その方向で話をすることもある。		

事業者名:グループホーム花の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括支援センターのスタッフ・地域の婦人部の代表の方も出席しており、色んな情報交換が出来るようになった。又、小旅行の時には社協のバスを借りたりする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人の希望を取り入れ、かかりつけ医との関係が切れないう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護と介護は情報を密にして、異常の早期発見・早期対応に努め、医師への相談・受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には医療機関との情報交換をし、状態を把握すると共に、利用者本人がどうすることが最も良いことなのかを考えていく。病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人にとって、どこでどう過ごすことが良いのかを家族と共に話し合います。ホームで過ごすことが決定すれば、医師・スタッフ・家族と思いを共有し悔いがない最期となるよう全力で支援します。	事業所は、殆どの利用者が介護4と介護5である。看護師・介護福祉士の取得者も多く、看取りの経験もある。早い段階で家族の意向を聞き、医師・看護師・職員・家族との話し合いが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に利用者の起こりうるリスクを全スタッフに周知してもらっている。冷静な対応ができるように日々の利用者の状態を知ることが重要である。毎年の救命講習も受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いつ起きるとも限らない災害に対しては、一応の取り決めはあるが、今後更に対策を身につけていかなければならない。火災に対しても、年2回の防災訓練を行っている。	災害に対して、地域住民や地元の消防団との連携を図り、火災や土砂災害などを想定して、年に2回、防災訓練が行われている。敷地内に井戸や備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉がけや特に排泄介助時は注意している。 スタッフには命令口調や幼稚な言葉がけはしてはならない、躰をする場でもないことを周知している。	利用者は重度が多く、一人ひとりの思いを大切にした支援が行われている。特に、言葉遣いや排泄時など羞恥心に配慮したケアが行われている。利用者に穏やかさがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの出来る事出来ない事を把握し出来るだけ声かけをするようにしている。 言葉が出ない方にも心の中の思いをくみ取れる介護に力を入れている。 一方的な介護にならないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢化と重度化の進む中で、利用者自身希望を口にすることは少ない。利用者一人ひとりの過ごし方を考えて、苦痛のないように、又めりはりのある過ごし方生き生きとした表情を出せる場面作りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには力を入れている。 いつもきれいに過ごしてもらいたい。その人に合った色合いの洋服等気にかけている。 フットケアにも力を入れている。 眼脂や耳垢等も注意して対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備をしてもらったりする。 作ることまではいかないが出来る方に出来る事をしてもらい、食事の時には話が弾むように心がけてる。 介助にて食事をする方も多くなっている。	開設当初から地元の野菜を使い、利用者に食べたい物を聞き、手作りの食事を提供している。また、糖尿食の利用者には栄養士の食事指導が行われている。食事形態も個々の機能に合わせており、開設して14年になるがマンネリ化がない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面や水分量には力を入れている。 健康維持はまず食からと考えている。 一人ひとりに合わせた量や食事の形態、残食はほとんどない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの徹底で、いつもきれいである。 歯ブラシも歯科医の勧める物を使用、口臭もなく肺炎の予防につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方も日中はトイレに誘導し、毎回の陰部洗浄で清潔と気持ちよく過ごせるよう支援している。 トイレに行ける方も完全な自立ではないため、必ずチェックが必要になっている。	常時のおむつ使用は出来るだけ避け、排泄パターン表に沿って声掛け誘導をしている。排泄後は毎回、陰部清拭をしており、施設内に臭気がない。又、トイレに排泄チェック表が設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表があり、便秘の状況を知ることが出来る。 一人ひとり個性があり個別対応で支援している。 むやみに薬は使用しないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は午前だったり午後だったり職員の動きの中で行っているが身体状況や本人の入りたくない時等は時間をずらせたり次に変更したりしている。 ゆっくりと一人ひとりに合った支援。	入浴は週2回、午前・午後に分けて支援をしている。特に、入浴嫌いの利用者には、時間を変えて、タイミングに合わせ、ゆったりとした入浴気分を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢者の方はずっと起きていることの負担を考え、適宜横になってもらうことをしている。 本人の意思で動ける方でも時に少し横になりませんか等の声かけをする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者は看護師であり、病気と内服のことに対しては常に気を配っている。 病状を医師に伝え内服や検査の必要性の見極め等連携している。 又、スタッフにも伝えて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状況的にも楽しみという部分は少なくなっており、ケアの部分が大きい。1/3の方は楽しみや役割があり、後の2/3の方は全介助だったりベッドに横になる時間が多い。それでも側において話しかけやボディタッチやマッサージ等ケアのなかで安心や快を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	状況的にも少なくなっている。 病院へ行ったりスーパーへ買い物と一緒に行くことはある。家族来訪の折ホームの近辺を散歩することもある。 家に帰りたいと強く訴えるときは家まで同行し安心にもつなげている。	近隣の散歩や道の駅・スーパーに出かけている。また、季節ごとの外出では、大山まで社協のバスを借りて、梅見に行っている。家族や住民・ボランティアもお誘いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にはお金を所持している方はいない。一緒に買い物に行った際お金を持ってこなかった「貸しちよいておくれ」と言う。好みの洋服を選んだりお菓子を選んでもらう。家族には説明と領収書で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	身内に電話したり、話すことができない方も声を聞くだけでも良いと実践している。今年には年賀状を出したいと思っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感を感じてもらえるよう小物を飾ったりお花を生けている。 玄関を入った時の臭いには特に気を配っている。 特に室温・換気には注意し熱中症・感染症にも力を入れている。	玄関に花や季節感のある置物・昔懐かしい品を飾り、利用者の想起能力を確認している。また、広告紙で施設周辺の景色をちぎり絵として作っている。共同空間に臭気がこもらないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いホームだが、TV前のソファで数人が過ごしている。廊下にも小さなソファを用意している。 利用者の一人で必ず窓側の椅子に行って過ごす方もおり、落ちつける自分の居場所と思っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の思い出の写真や利用者個人の生活の写真飾ったり、大好きな動物のぬいぐるみを置いたり、お花を飾り毎日水やりを楽しみにしている。	居室の窓から、町の特産品のねぎ畑が拡がり、住民との会話もできる距離感である。事業所は、古民家を改修した部屋で、家族との思い出の写真や趣味の作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせたベッド作りや、夜日記をつける方にはマイテーブルを用意している。 又、居室もその人の動きや状態により移動し安全と自立できる生活を考えている。		